平成 23 年度 学校 自己評価表(2)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン) 性の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。 生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習

1 基礎的な学力の保障 今年度の 重点目標 3 基本的生活習慣の確立 4 地域貢献活動の推進

5 国際交流活動および国際理解教育の充実

年 度 当 初						評 価 結 果 (10)月		
評価項目		現状	具体項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 地域貢献活動の推進	生徒会活動	を問われることも多い。	る力など生きる力を育成し、 地域に貢献できる人材の育成を目指す。 〇部活動を通して、生徒が切磋琢磨する環境を整え、活気ある学校づくりを推進する。	上を目指す。 〇年間を通して部活加入 率80%以上を目指す。	る。 ○定期的な執行部会を開き、リーダーとしての自覚を高める。 ○キャリア教育の観点からも部活動への	○学校祭後のアンケートは以下のとおりだった。満足した70.2% どちらでもない25.6% 満足しなかった4.2%。各種行事で生徒会執行部は精力的に活動した。○各部活動は活発に活動している。4月からの部活動の継続率は10月1日現在97.3%である。	В	○生徒が自ら判断する力の育成を意識しながら、生徒会執行部の自主性を育てる。。 ○部活動を通して、さらに活気ある学校作りを推進する。
	環境	○PTAと生徒会が一体となって 通学路等の清掃奉仕活動を行 い、地域貢献の意識も高まって きている。	タイアップさせて地域美化を	○生徒の地元への愛着が 深まるような活動を組織 し、参加人数を増やす。	を推進し、本校に対する理解浸透を図る。	○7月にはPTA、9月には生徒 が中心になってコスモスロード の整備を行った。		○引き続き取組を継続する。
		○TEASを更新し、節電・節水の 意識も浸透してきている。	○循環型社会にも適応できる環境に配慮した学校作りを 進める。	○環境委員などの研修を 通じて生徒の中に環境 リーダーを育成する。		○環境委員も主力で設置したグ リーンカーテンは、大々的に報 道され大きな反響があった。		○環境委員を環境リーダーとして育 てる。
			〇日常の清掃活動を更に充 実させる。	○前年度電力使用量に対して1%削減、前年度上水道使用量に対して8.2%削減、前年度ゴミ廃棄量に対して15.4%削減を目指す。		○9月末現在、前年度比で電力 使用量は7.30%増、水道使用量 は12.24%増、ゴミ廃棄量は 23.72%減であった。	(○巡視などを通じて消灯確認などを 徹底する。
		○人権教育全体計画に則り、学校生活全体を通じて取り組んでいる。 ○様々な課題を持った生徒がいる。	権感覚をはぐくむ。 ○個別具体的な課題に対応できるよう研修等を活用する。	ように促していく。 ○相談部・特別支援担当・ 保健部と連絡を取りながら 様々な課題を抱える生徒 へ対応する。	○出来るだけ多くの職員が研修を活用できるよう工夫する。	影響を与え、秋の人権教育LH Rにつながる講演会となった。 ○担任連絡会などを通じて情報交換をした。また特別支援研修会を実施し、教員の対応力の向上を図った。	В	○人権教育公開LHRに多くの保護者の 参加を促す。 ○人権公開LHRを学年で日程を分散させ、教職員が他学年の実践から学ぶ機会を設け研修できるようにする。 ○引き続き様々な機会を捉えて各部署と連携し、課題を抱える生徒へ対応する。
	情報発信	絡が届かない場合もある。	向上。 ○メールサービス・ホーム ページをからの情報発信の 回数を増やす。	も促す。 ○メールアドレス変更の際 の、メールサービスへの再 登録の意識を促す。	を促す。 ○メールアドレスを変更した場合に、再登録することを忘れる保護者も多い。登録手順の文書を工夫する。	○メールサービスでの情報発信を頻繁にしているが、利用している分掌に偏りがある。。 ○メールアドレス変更時の再登録のため、登録手順の文書を改訂したが、最初から登録自体をしていない保護者もある。	В	○保護者への文書配布時はメール サービスをするよう各分掌に徹底する。 ○保護者会の時に、登録手順の文 書を再配布する。
5 国際交流 活動および国 際理解教育の 充実	交	○隔年でアメリカ・韓国の姉妹校 と短期留学生を交換している。 昨年度韓国へ派遣4名・アメリカへ 6名、受け入れ韓国から7名・アメ リカカシら4名であった。	○釜山デザイン高校と交換 する短期留学生の数を増や す。	○韓国へ10名の派遣、韓 国からも10名受け入れを 目指す。	○ハングル選択者に機会を見つけ留学を勧め	ティ呼はすれ宮底のアバリカへ	В	○韓国からの留学生のホームステイ 受け入れ家庭を確保する。特に研修 旅行を経験した2年次生の家庭に、 積極的な受け入れを依頼をする。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し [80%以上] [60%程度] [40%程度] [20%以下]